

2020年5月期(第34期) 第2四半期 決算説明会

2019年12月26日

株式会社ウェザーニューズ
代表取締役 草開 千仁



2020年5月期 第2四半期 実績

【全般】

- 連結業績
- 売上高増減分析
- 営業利益増減分析

【個別分析】

- Sea Planning
- Mobile/Internet Planning

【投資状況】

- 投資の状況

【株主還元】

- 中間配当

今後の業績目標

【中期経営計画】

- 重点施策
- 主要な事業の計画
 - Sea Planning
 - Mobile/Internet Planning
- 3か年計画

【2020年5月期 業績予想】

- 業績見通し

2020年5月期 第2四半期 実績

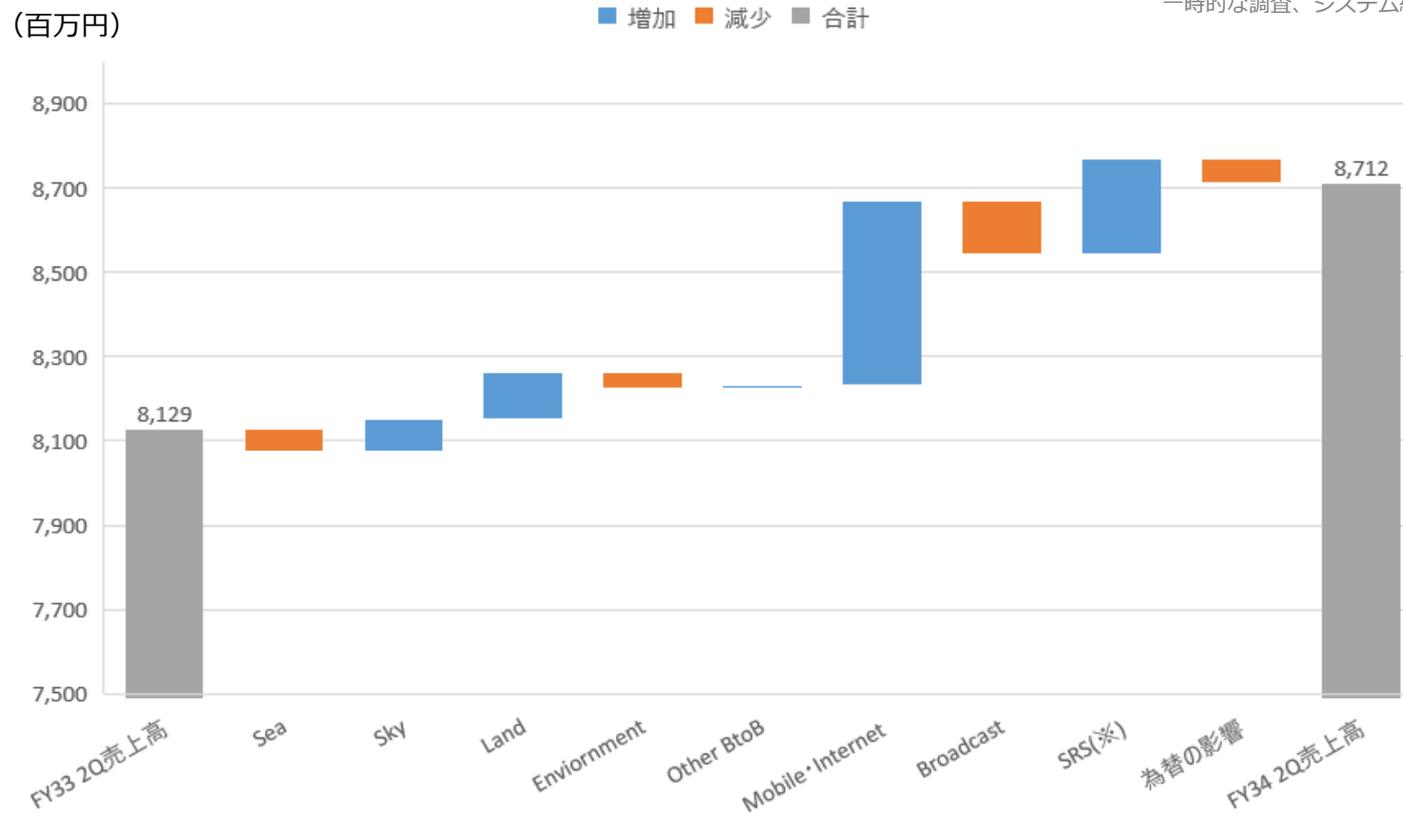
(単位：百万円)	2019.5期 (第33期) 上期実績	2020.5期 (第34期) 上期実績	伸び率
売上高	8,129	8,712	7.2%
(BtoB売上高)	4,765	4,917	3.2%
(BtoS売上高)	3,363	3,794	12.8%
営業利益	882	759	▲13.9%
経常利益	876	786	▲10.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	638	559	▲12.5%
EPS (円)	58.58	51.18	▲12.6%

- [BtoB] Sky、Landのサービス提供先増加により3.2%増収
- [BtoS] 広告事業、スマホ向けサービスが好調に推移し12.8%増収
- [営業利益] 前年度までの採用に基づく人件費の増加、及び広告投資により13.9%減益

売上高の増減分析

※“Stage Requirement Settings”の略。
 将来のTG型ビジネスにつながる
 一時的な調査、システム納入など

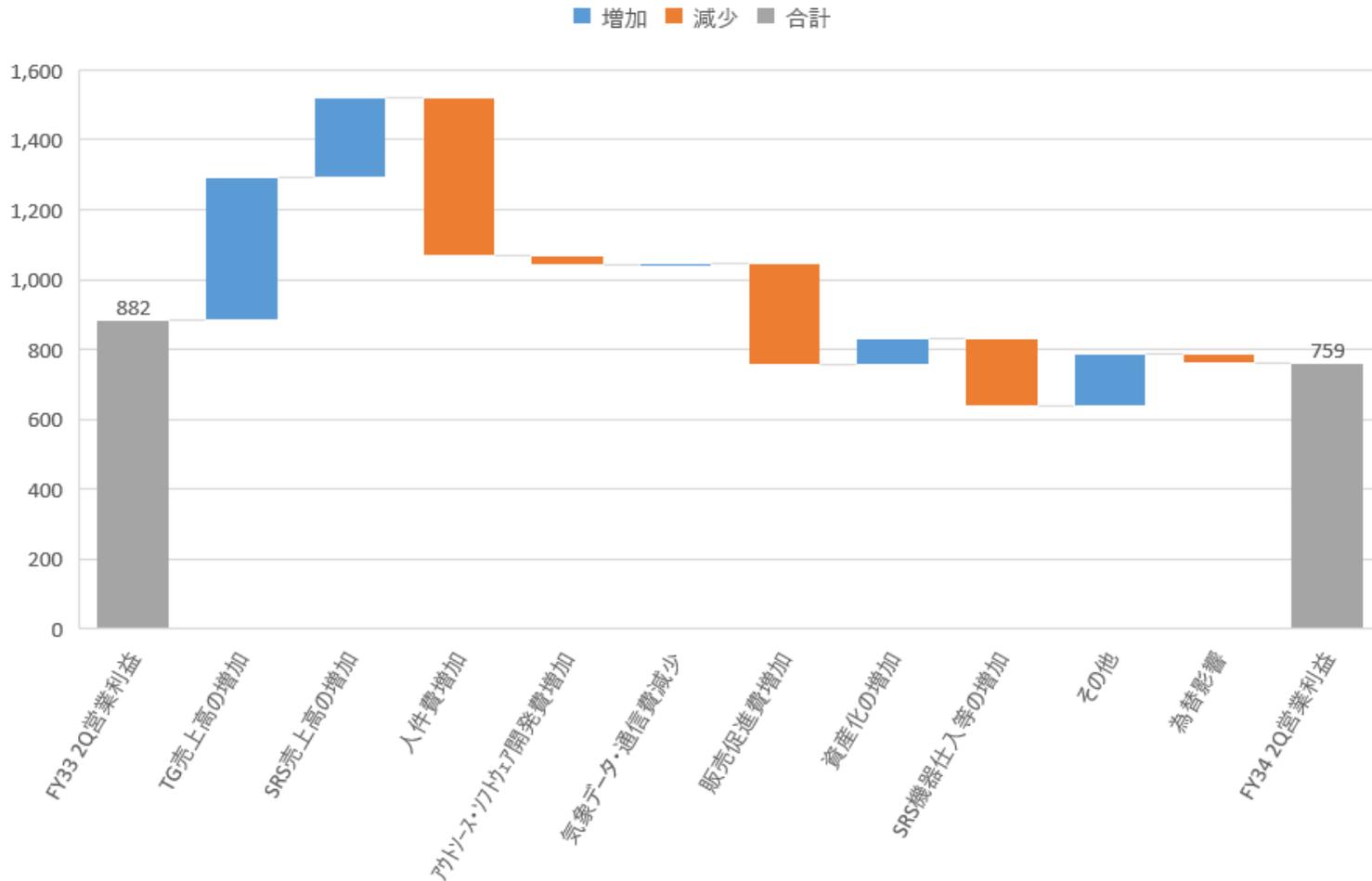
(百万円)



- <BtoB> Sky・Landではサービス提供先増加により増収
 Seaでは市況低迷の影響に伴うサービス提供数減少により減収
- <BtoS> Mobile/Internetでは広告売上・スマホ向けサービス売上が増加
 Broadcastでは売上の一部をMobile/Internetへ移管したため売上が減少

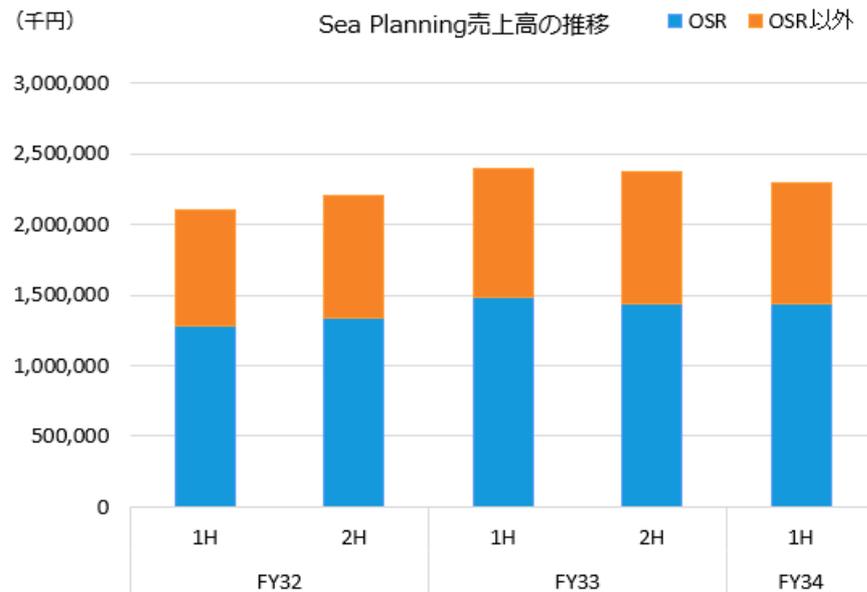
営業利益の増減分析

(百万円)

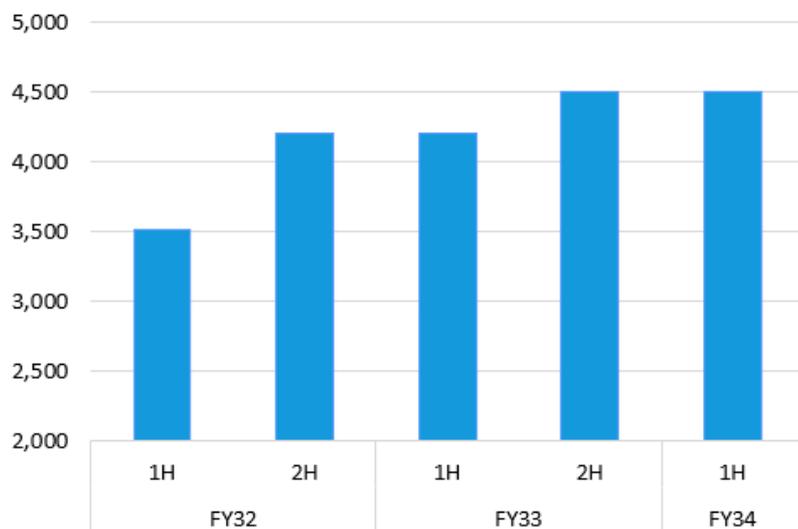


- 前年度までの人材の積極的採用に基づく人件費の増加
- TVCMなど広告投資による販売促進費の増加

- 昨年度末からの市況低迷が一部で継続している影響により荷動きが鈍く、サービス提供数・売上が共に減少
- OSR隻数・OSR単価は横ばい



OSRサービス提供隻数の推移 (隻)

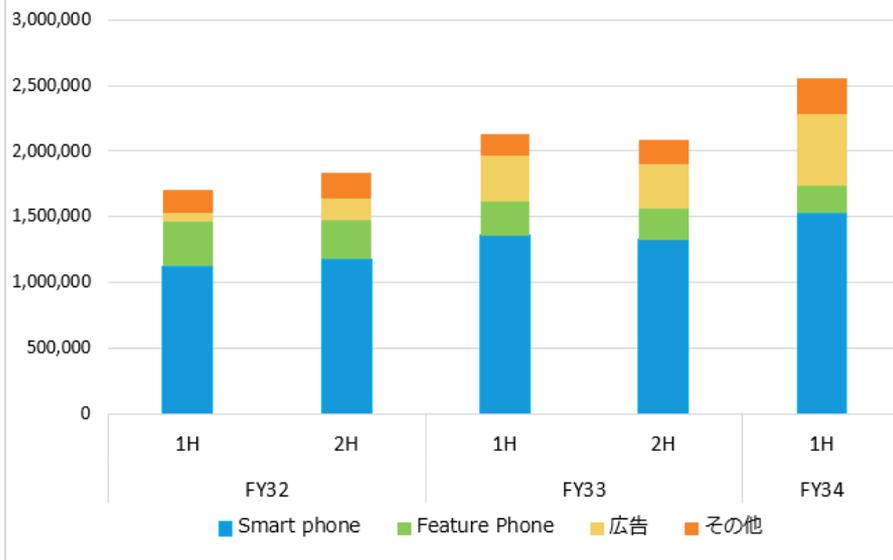


OSRサービス単価の推移

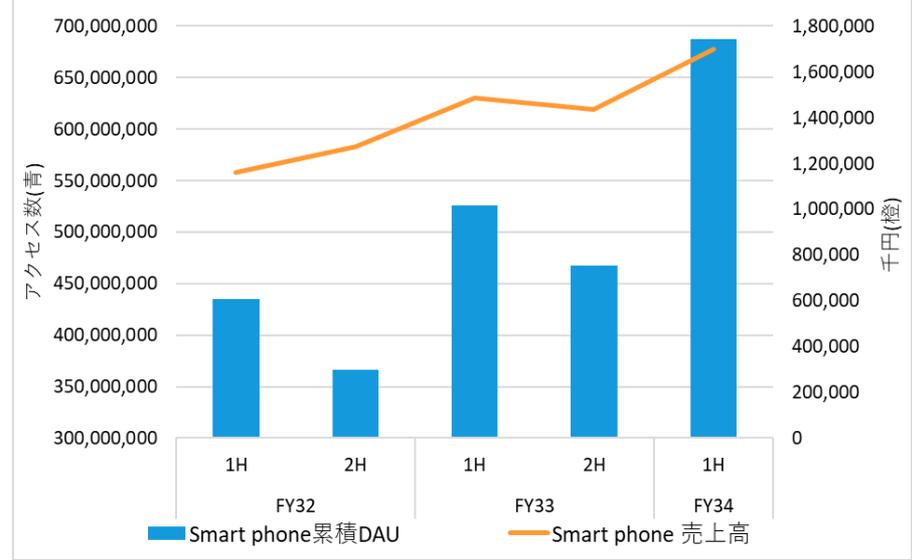


- 台風15号、19号など大規模災害発生により気象への注目が高まり、トラフィック数増大
→ Smart phone向けサービス売上、広告ビジネスが共に増収
- Smart phoneにおける今期累積DAUは過去最高の6.8億アクセス

Mobile/Internet Planningの売上高



Smart phoneの累積DAUと売上高



※1日にサービスを利用したユーザー(アクティブユーザー)の数の累積のこと。
 天気は毎日利用することから、累積DAUがWNIビジネスにマッチする指標として採用。
 Smart phoneの累積DAUの算出には、アプリ(ウェザーニュース), Smartweb, キャリア提供コンテンツ等のアクセス数を自動集計。

(単位：百万円)	2019.5期 (第33期) 上期実績	2020.5期 (第34期) 上期実績
設備投資	371	423
減価償却	346	354
研究開発	224	318
従業員数 (連結)	943名	1,036名

- 共通インフラ (ソフトウェア・データベース) 整備に伴うソフトウェア開発コストの増加
- AI等の技術を用いた解析業務、及び観測インフラの開発・整備に伴う研究開発費の増加
- 前期までの人材への投資に伴う従業員数の増加

方針

「高貢献、高収益、高分配」の基本理念の下、TGビジネスが継続的に成長していることから、期初計画の1株あたり年間配当金基準100円をベースに、中間配当を50円とします。

直近の配当実績

	中間配当	期末配当	合計(年間)
2017.5期	50円	50円	100円
2018.5期	50円	50円	100円
2019.5期	50円	50円	100円
2020.5期	50円	(予想) 50円	(予想) 100円

今後の業績目標

第四成長期
Stage3

Global Business (BtoB 50:50)

BtoB市場において国内・海外売上を50:50に

市場展開

- 1 交通気象・環境気象のグローバル展開
- 2 予測精度No.1 & コンテンツ化による生産性向上
- 3 マーケットを後押しするクラウド展開
- 4 気候変動に対応した新規事業

経営基盤

- 1 事業を通じた持続可能な社会への貢献 (ESG 投資)
- 2 働きがい向上 (アントレプレナーシップの活性)

気象×航海

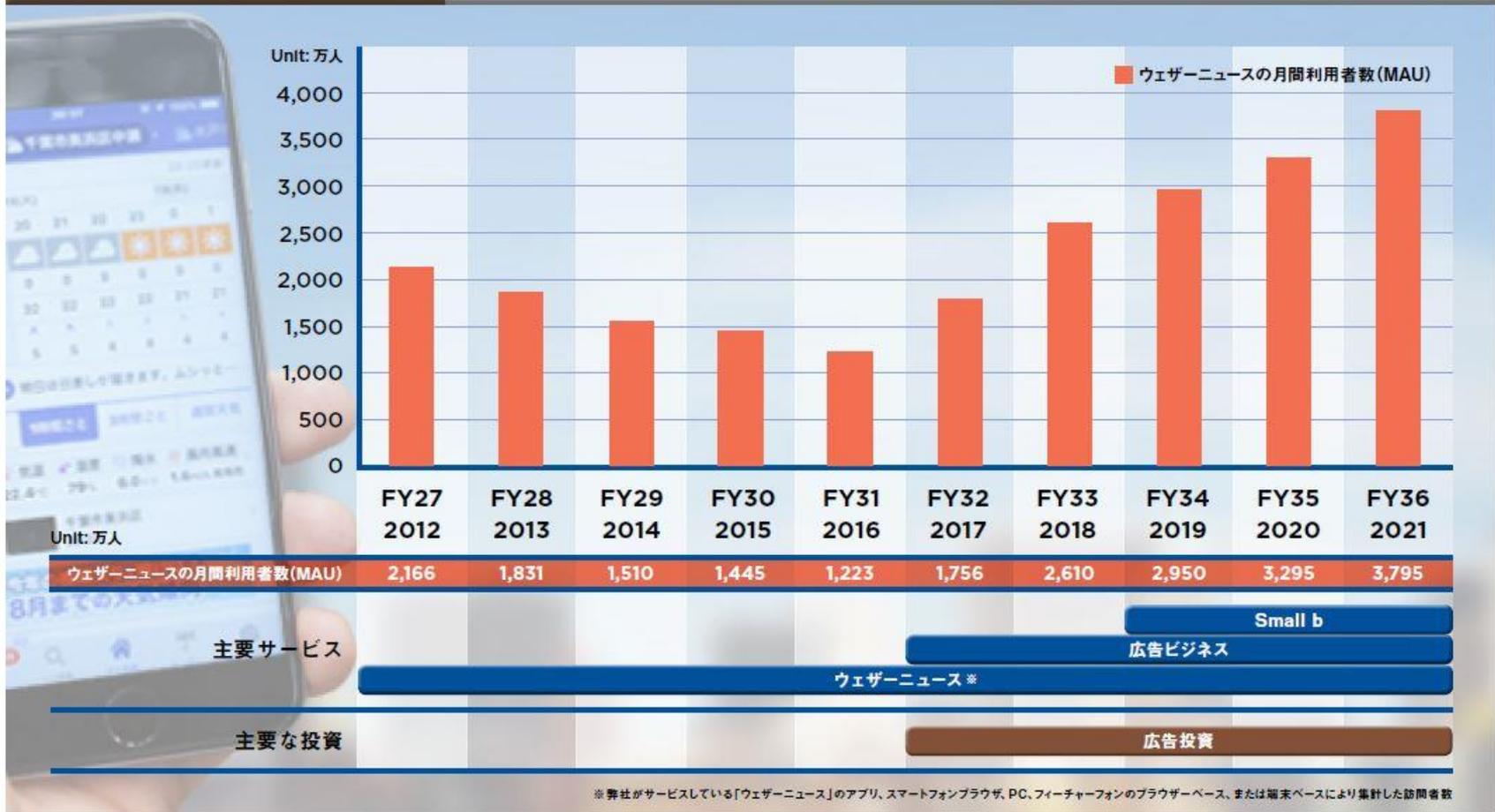
Routeing Service 10,000 隻 (全世界の外航船のシェア 50%)



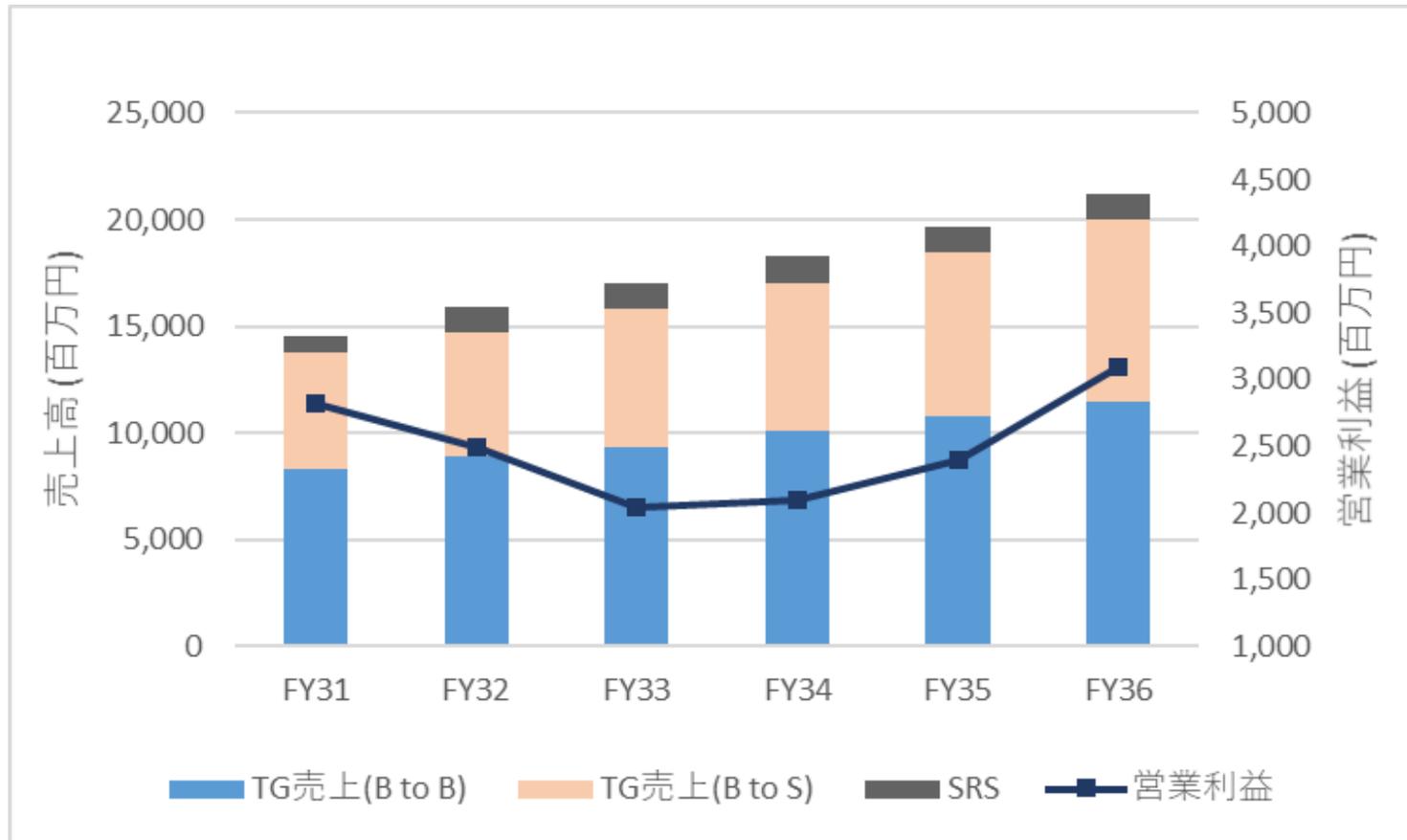
- 船隊計画全体の最適化サービスであるLOOP・T-Maxの拡販によりOSR隻数増加を狙う
- オーナー市場の獲得を狙い、座礁・衝突・気象海象によるダメージリスクの対応策を提供するNAR (Navigation Assessment & Routing) を展開予定

気象×個人サポーター

日本で No.1 の気象コンテンツプラットフォームの実現



- MAUの上昇によるアプリ会員の更なる増加と広告事業の成長により継続的な増収を計画
- 中小企業向け市場へのアプローチとして、Small bビジネスを計画中



- 過去3年の投資によるデータベース、開発・運営プラットフォームの整備により、向こう3か年で生産性向上に伴う利益増を見込む
- 未来投資は一巡するも、2020年5月期は一時費用の影響で営業利益は同益程度を計画
- 生産力の底上げによりTG増は年間15億円ベースまで上昇、2022年5月期末にはTG売上200億円を目指す

(単位：百万円)	2019.5期 (第33期)		2020.5期 (第34期)		通期伸び率
	上期実績	通期実績	上期実績	通期予想	
売上高	8,129	17,052	8,712	18,300	7.3%
(BtoB売上高)	4,765	9,961	4,917	10,700	7.4%
(BtoS売上高)	3,363	7,090	3,794	7,600	7.2%
営業利益	882	2,045	759	2,100	2.7%
経常利益	876	1,930	786	2,100	8.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	638	1,370	559	1,500	9.5%
EPS (円)	58.58	125.63	51.18	137.22	9.2%

- 売上高は11期連続の増収を計画
- 投資面では、Mobile/Internetの更なる成長を後押しする継続的な広告投資、及び携帯電話基地局に設置した観測機器の新型へのリプレイス・Flash終了等に伴うシステム投資により、2020年5月期の各段階利益は同益程度を計画



weathernews

Always WITH you!